

— 24 —

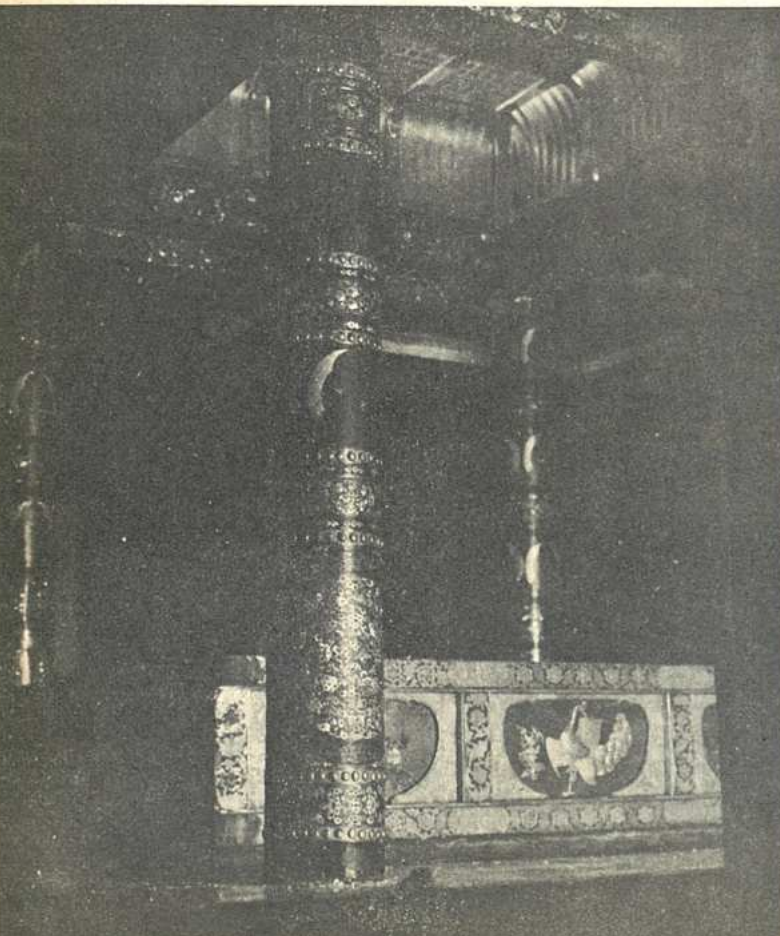
国宝金色堂の保存修理工事がほぼ終
わり四月十八日午前十時から讃衡蔵
に安置されていた藤原三代の遺体を
金色堂に移す還座式が今春曉(東光)
貴主ら一山の僧と古式の衣装をつけ
た稚児約三十人につきそわれておこ
そかに行なわれました



よみがえった至宝



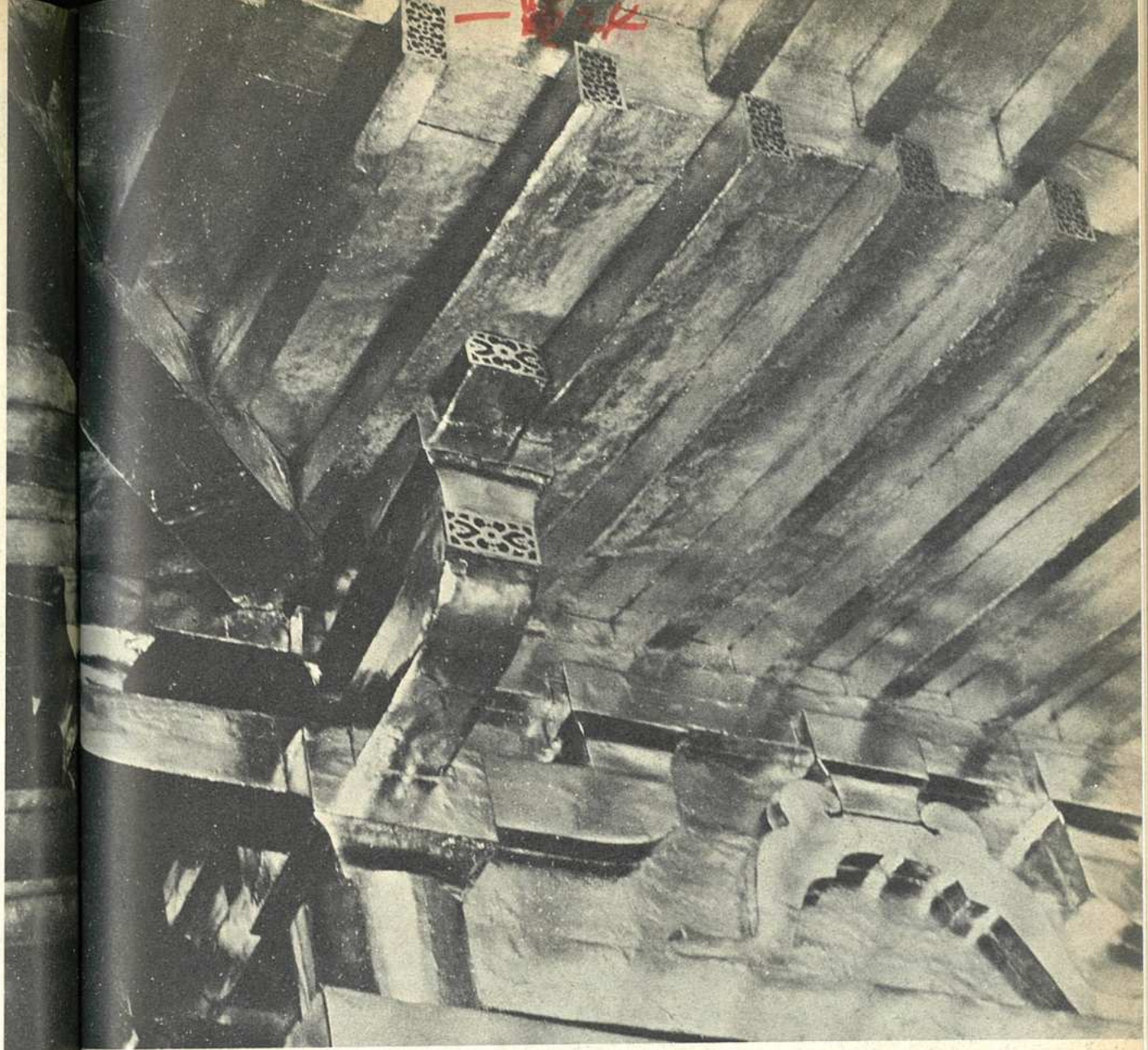
讚衡蔵での金色堂諸仏三十三体の修理



金色堂内陣の七宝華蔽の巻柱と須弥壇(すみだん) 三代のミイラはこの壇の下に眠っています

▶ 金色堂外陣の柱の上部のます(斗)組みと垂木 堂内外はすべて黒漆で厚く塗り金バクでおおわれています

◀ 壇の側面には格狭間(こうざま)があり中に金銀板で孔雀が浮き彫りされています



六年余の歳月と一億六千四百万円をかけた世紀の大事業、平泉中尊寺の金色堂修理復元は、このほど全工事を完了。四月十八日午前十時から讚衡蔵(さんこうぞう)に安置している藤原三代の遺体を金色堂に移す還座(かんざ)式が行なわれました。事業費の負担は国が七五%の一億二千五百五十万円、県二千七十八万円、中尊寺同額。金色堂修理委員会(委員長、藤島亥治郎氏―盛岡市出身、工学博士)が三十七年以来現代工芸技術の粋を生かし創建当時のあらゆる技法を駆使して再現したもので、堂内外の金バク、内陣の螺鈿(らでん)などまばゆいばかりの輝かしさ八百五十余年前の建立当初にあざやかによみがえっています。

五月一日には落慶式が行なわれ、この日から金色堂は四年ぶりに一般公開されるほか、五月七日までの春の藤原まつり特別大祭では、源義経公東下り行列(三日)、弁慶力餅競技大会(五日)、郷土芸能大会(六日)などの多彩な行事がくりひろげられます。